

一般質問 議:議員/理:理事者

- 健康診断の強化について
- ひきこもり支援と重層的支援体制について

その他の質問

- ・勝山市行政における組織のあり方と職員体制について

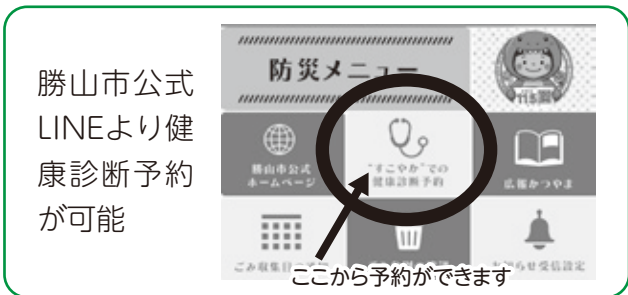


石垣智史 議員



議 勝山市の特定健診受診率は約42%で、国の目標70%を大きく下回っている。健診は病気の早期発見につながり、命を守る大切なもの。通知や予約方法を見直し、QRコード予約や自動通知など受診しやすい仕組みをすることで、受診率向上と健診強化を図る必要があると考えるが、市の見解を伺う。

理 市民全体の受診率は把握できないが、特定健診は目標50%に対し令和6年度42.5%である。案内封筒の工夫や集団・個別健診の選択、LINE予約システムの導入、自己負担無料化など受診しやすい体制を整備し、受診率は上昇している。受診データは蓄積・共有しており、今後は医師会等と連携し活用を検討する。広報やLINE通知の充実などにより、引き続き受診率向上に取り組む。



議 ひきこもり状態にある方への支援について、国の推計では60万人以上いるとされ、地域にも同様の課題があると考えられる。来年度から始まる重層的支援体制がどのような仕組みで支援を行うのか、また市内の実態や人数の把握、さらにリスキリングや就労支援など社会参加につなげる取組について、市の考えを伺う。

理 重層的支援体制は分野横断で支援をつなぐ仕組みで、対象は全ての市民である。ひきこもりの方には訪問や電話等により関係構築を図り、段階的に支援につなげる。当市では全数調査は実施しておらず具体的な推計人数はお示しできないが、相談等からひきこもり状態が疑われる事例はある。関係機関等と連携し、社会参加や就労、リスキリングの機会確保に努める。

一般質問 議:議員/理:理事者

- 保育園給食の実質無償化と小中学校給食の完全無償化について
- 115プロジェクトについて

その他の質問

- ・友楽喜の事務所機能移転について
- ・防災行政無線の戸別受信機について
- ・クマの出没と森林環境について
- ・地域おこし協力隊・インターン制度について



李江嵐 議員



議 無償化は子どもの栄養・品質・量を確実に担保することが重要と考える。そこで伺う。予算の積算は、近年の物価上昇等を踏まえ、栄養・品質・量の維持に影響が出ないように配慮した計画か。過年度実績を基準に算定したのか。また、「低価格優先」とならないよう、食材の品質・安全性・産地などの考え方、それを担保する契約・発注上の整理をどのようにするのか。

理 保育園等は国の副食費の徴収免除加算の公定価格や各園の主食費の中央値をもとに副食費4,900円、主食費800円を補助上限とした。公定価格は物価上昇を踏まえ段階的に引き上げられており、各園への調査も反映した。小中学校は令和7年度の保護者負担額をもとに算定したが、食材調達は従来通り各校で行うため価格優先の心配はない。

議 115プロジェクトは、応援金115を軸として人口減少対策を市内横断で進める取組と理解している。応援金115は年間約1.6億円規模であり、柱となる数値目標は重要だ。そこで伺う。結局115プロジェクトとはどういったもので、何をやるものなのか。また、出生数115人・婚姻数115%増を人口目標としているのか。その目標に対し、令和7年度の成果はどうか。

理 115プロジェクトは市の人口減少に歯止めをかける目的で、応援金や特色ある教育、保育料無償化などの施策を総合的に展開し、出生・移住増と転出抑制を図るもの。10年後の「出生・転入計115人、婚姻数115%増」は指標として今後も重要な目安である。令和8年2月末現在、出生74人で80人を超える見込み、婚姻数は24組。なお転入時アンケートによると転入61世帯中8世帯が応援金115や保育料無償化を移住のきっかけに挙げており、115プロジェクトの取組が徐々に成果を結びつつあると考えている。

